

「防犯設備士としての活動を振り返って思うこと。 (安全・安心まちづくり基本法の制定を夢見て)」

大阪府防犯設備協会 相談役 平岡 豊



「平成期の犯罪情勢の悪化」と称される平成8年ごろから平成14年にかけた全刑法犯の認知件数(全国)の増加は、犯罪対策を大きく変化させていった。国では、内閣が犯罪対策閣僚会議を設置し、平成15年12月「犯罪に強い社会の実現に向けての行動計画(2003)」を示し、政府を挙げて犯罪対策に取り組むこととなり、犯罪対策は、欧米で既に採用されていた「防犯環境設計理論」を中心とした社会安全政策として展開されることとなる。

大阪では、平成13年6月大阪府教育大学附属池田小学校で、児童23人が殺傷される痛ましい事件が発生、また、この年(平成13年中)の全刑法犯の認知件数(大阪)が東京を抜いて全国ワースト1となった。このような情勢を背景に、平成14年4月「大阪府安全なまちづくり条例」が、全国に先駆けて制定され、それを支援する組織の1つとして、平成13年11月「大阪府防犯設備士協会」(以下「大防設」という。)が設置された。私が大防設の理事となったのは平成15年6月からで、今年6月で専務理事の職を解かれた。この17年間に感じてきたこと、思ったことを述べてみたい。

大防設は急ごしらえの組織であったためか、いろいろと課題があった。

まず、協会運営資金の不足である。会員の会費のみが唯一の運営資金であったため、事務所を設ける経費がなく、念願の独立した事務所を構えたのは平成25年8月であって、事務局の体制も、十分な

ものでなく、会員有志のボランティアに支えられてきた。名称を「大阪府防犯設備士協会」とし、銃前技術者などを別組織として設置、防犯設備機器・システムなどに関係する企業を中心に組織化したため、収入源となる会員数が伸びなかった。今年、「大阪府防犯設備協会」と改め、志を同じくする者の加入ができるやすい環境を作った。

大阪府下における犯罪対策を振り返ると、平成14年4月「大阪府安全なまちづくり条例」が制定され、府下の組織を挙げての犯罪対策が進められた。

平成21年4月、当時の橋下大阪府知事、平松大阪市市長、繩田大阪府警察本部長の3者で、大阪府下における「街頭犯罪等ワースト1返上」のための総合対策、「安全・安心NO.1実現に向けた取り組み」(3ヵ年計画)の実施が合意され、平成21年度からの事業として街頭防犯カメラの設置などが予算化された。

また、平成27年8月に発生した「寝屋川市中学生誘拐殺人事件」で、防犯カメラの映像の追跡から事件が解決したことから、街頭防犯カメラの効果は犯罪抑止のみならず犯罪捜査にも役立つことが広く認識され、守口市、箕面市、枚方市、東大阪市など市の予算で大量の街頭防犯カメラ設置が行われるようになった。街頭防犯カメラの設置は治安回復に大きく貢献しており、大防設も「優良防犯カメラシステムの性能及び設置基準」を制定し、各市区町村に示し、優良な街頭防犯カメラの設置について

働きかけ、現場での設置場所等の検討などの実践活動に積極的に関与してきた。

今一番力を入れているのが、ソフト面での安全なまちづくりで、地域住民への働きかけである。地域住民の「自分たちのまちは自分たちで守る。」という意識を高め、地域の安全への住民の参画を促すことであり、そのため、防犯講話等での働きかけを強めている。

これらの対策が功を奏したのか、令和元年中の全刑法犯の認知件数(全国)は、約75万件と大幅に減少した。しかし、東南海トラフの地震発生の確率が高まるなか、災害対策の必要性が強調され、市民の犯罪対策への関心を著しく低下しており、当協会に対する防犯診断や防犯カメラの設置・助言の依頼も減少、各市町村安全・まちづくり協議会の活動も形骸化してきている。

防犯設備士の資格の法定化も、依然として見通しが立っていない。すでに、ほとんどの都道府県では「安全なまちづくり条例」が制定されているが、基本

となる国の「安全なまちづくり基本法」はいまだ制定されていない。行動計画は、「世界一安全な日本」創造戦略(平成25年12月)まで、5年度に3回更新されてきており、総合的な犯罪対策は社会安全政策として位置づけられ、警察から内閣を中心とした政府に移った感が強い。一方、数次わたる地方分権改革により、基礎自治体の役割や権限が強化されるなか、安全なまちづくりの推進は、住民の最も身近に位置する基礎自治体に移行しつつあり、地域住民の協働の動きが活発になってきている。

このような情勢の下、防犯設備士はこの安全なまちづくりで重要な役割を果たしており、今後ともその地位を維持するためには、「安全なまちづくり基本法」が制定され、そのなかで、防犯設備士の役割が明示される必要があり、法定化の実現のために何をなすべきか、誰に働きかけるべきか検討し、全国挙げて実現に向け努力することを惜しんでならないと思う。



堺市八田荘こども園での講演風景